



作品名

交錯～西へ向かう～

コンセプト

立体交差による高さの表現と「精霊流し」

参考にした場所など

長崎市宝町周辺 長崎電気軌道「宝町」電停

【新幹線と路面電車の交差】

単調になりやすい直線モジュールにおいて、変化を出すために、路面電車である「長崎電気軌道」とトンネルを抜けて長崎の町に出てくる高架の「西九州新幹線『かもめ』」との立体交差を再現しました。新幹線の高架は実際より高くすることで、より高低差のメリハリをつけています。



▲新幹線と路面電車の立体交差

▼2個をつないだ柱



【路面電車軌道と精霊流し】

路面電車の軌道敷きは石畳で、電車の通る箇所は茶色く変色しています。また宝町周辺の架線はセンターポールを採用しています。その様子を再現しました。

長崎の精霊流しは個人の御霊を弔い、精霊船で極楽浄土へと送り出します。その精霊船は大きく派手で、中国文化の影響を受け、銅鑼を叩き、爆竹を鳴り響かせながら列を成し進んでいきます。長い直線モジュールを利用して、その精霊船の列と爆竹が鳴り響き、煙が舞う様子を綿を使って再現しました。



▲センターポールの架線柱と石畳敷きの路面電車軌道

▼飛び散る爆竹と舞う煙

